

ヤクシカ対策(計画捕獲)検討の場における概要

日時:2017年6月29日 14:30~17:15

場所:屋久島森林生態系保全センター会議室

出席者:

【環境省】加藤課長(九州地方環境事務所)田中首席自然保護官(屋久島自然保護官事務所)・
【林野庁】矢島課長・佐藤自然遺産保全調整官・沼津野生鳥獣管理指導官(九州森林管理局)、
古市所長・渡邊生態系管理指導官(屋久島森林生態系保全センター)、岩本次長(屋久島森林管
理署)

【鹿児島県】臼井技術専門員

【鹿児島県環境技術協会】塩谷氏

【環境省業務請負】浅野氏、迫田氏(株式会社一成)、中村氏(日林協)

議題

1. シャープシューティングの体制によるヤクシカ試験捕獲の実績について

議事概要

今年度実施予定のシャープシューティングによる試験捕獲と屋久島西部地域の自然環境保護に関する申し入れについて関係行政機関の担当者等で意見交換を行った。

シャープシューティングについては、主に地域関係団体への周知と理解、人材育成、安全管理等の議論がなされた。

以下に、それぞれの議題で出た意見等を示す。

- ・ 環境省では、平成27年から林道で移動式シャープシューティングの検討を始め、今年度は実弾を使用した試験捕獲を予定。目的はシカを捕獲することではなく、発砲によるシカの反応確認及び実施体制の構築試行、シャープシューティングの屋久島への導入適否を評価する。
- ・ 12月~2月の期間に、南西部と中央部の国有林林道で試験捕獲を行う予定。
- ・ 地域関係者の理解が重要であるため、早めに周知等した方がよい。地域関係者の理解がいかに関われるかがシャープシューティングがスムーズにいくためのポイント。
- ・ シャープシューティングは、高いレベルの技術が必要。
- ・ 実施体制について、最終的には体制図のようなものを作成したい。
- ・ 捕獲個体処理について、役場に相談したが、今後必要に応じて森林管理署にも相談したい。
- ・ 安全管理については、作業の洗い出しとリスクの予測を行って安全対策を検討して実施する。ライフル銃関係以外の現場作業の安全管理では、林業関係での知見を有する森林管理署や森林生態系保全センターの協力をお願いしたい。

- ・ 人材育成については射手以上にスポッターが重要である。射手が優れていてもよいスポッターがいないと機能しない。
- ・ 人材育成もリンクさせた本格導入がへ向けたプランを作成する必要。
- ・ 計画捕獲を本格的に行って行くためには、今行っている捕獲手法検討と並行する形で第2種特定計画の下に位置づけられる「計画捕獲の実施計画」作成を進めて行くことも必要。
- ・ シャープシューティング実施の周知については特に観光客にも注意する必要がある。
- ・ 登山者や観光客、研究者の誤進入を防止する見張りの人間同士で無線連絡ができるかどうかを確認する必要がある。もしできなければ、その間に中継を置く必要がある。
- ・ 給餌については、周辺に餌がある場合、ヘイクューブやペレットでは全く寄り付かないことがあった。(注：平成27年度環境省業務では夏・秋でも誘引できた。)
- ・ 冬期に行うのであれば、餌が少ないので効果があるのではないか。
- ・ 流し猟が行われている地域で技術の高い人でもシャープシューティングは難しい。シャープシューティングには経験が必要。
- ・ 今後、今日のような集まりを、夏～秋、試験捕獲開始直前、試験捕獲終了に開催したい。